

## 1. 略歴

1981年3月	東京大学文学部印度哲学印度文学専修課程卒業
1981年4月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程（印度哲学）入学
1984年3月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程（印度哲学）修了
1984年4月	東京大学大学院人文科学研究科博士課程（印度哲学）進学（～1989年3月）
1985年7月	インド・デリー大学大学院留学（文部省国際交流計画）（～1986年5月）
1988年4月	日本学術振興会特別研究員（～1990年3月）
1994年6月	博士（文学）（東京大学）
1994年10月	東京大学文学部（インド哲学仏教学）助教授
1995年4月	東京大学大学院人文社会系研究科（インド哲学仏教学）助教授
2006年1月	School of Oriental and African Studies (University College of London) 教授（～2006年3月）
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科（インド哲学仏教学）教授
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科（次世代人文学開発センター兼担）教授
2011年3月	Stanford University 客員教授（～2011年4月）
2012年2月	University of Virginia 客員研究員（～2012年5月）
2013年6月	東京大学大学院人文社会系研究科（次世代人文学開発センター配置換、インド哲学仏教学兼担）教授
2017年3月	University of Vienna (Faculty of Philology and Cultures) 教授（～2017年5月）

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野 b 研究課題

専門はインド仏教聖典形成史、および人文情報学 (Digital Humanities)。前者については、経 sūtra と律 vinaya を中心とするテキストの形成過程の解明を通し、初期仏教から大乘仏教にいたる思想史の構築を図る。研究テーマの詳細は、(1)大乘経典の形成過程と思想的特徴の解明、(2)近代仏教学における仏教研究方法の問いなおし、(3)仏教思想の現代的意義の考究、という3点に集約される。西洋近代に生まれ、200年の歴史を有する仏教学の方法論について、人文学の方法論全体のなかで再検証し、同時に現代の倫理として機能する可能性を考慮に入れつつ解明を進めている。後者の課題、人文情報学については、大蔵経という膨大な漢語仏教文献コーパスを中心として仏教学の国際的デジタル知識基盤形成を進め、デジタル媒体における人文学研究の方法論構築をめざしている。

### c 概要と自己評価

仏教史最大のなぞとされる大乘仏教成立問題について、テキストから想定される当時の社会背景に成立要因を還元するという、これまで主流をなしてきた研究のもつ問題点を洗いなおし、テキスト研究として的大乗仏教研究の方法を追及してきた。1960年代以降、歴史学における言語論的転回を経た人文学において課題化されたテキスト論は、古代インド仏教における諸文献、ことに初期大乘経典を解明するさいに重要な主題となる。ここ10年のあいだに、ポスト構造主義以降のテキスト研究批判を踏まえ、大乘経典の特性の解明を進めるなかで、大乘仏教運動は、外部の制度的変化に反映することのない経典制作運動として既存の仏教制度内部で進められ、その成立には口伝から書写へという伝承の媒体の変化が大きく関与していた、という新たな仮説を提示しえた。同時に、近代仏教学方法論全般を問いなおし、イデオロギーに先導されがちな欧米起源のオリエンタリズム論の影響下に留まる仏教学批判を超え、資料の特性と仏教伝説の形成方法とに照合せつつ批判をする方法の樹立をめざし、一定の成果を挙げつつある。

人文情報学にかんしては、ことにこの10年に蓄積した成果を国際学界において積極的に検証したことによって、Digital Humanities という人文学新領域の構築と推進において仏教研究が果たすべき役割を顕在化させた。文字レベルにおける Unicode への登録と ISO 漢字委員会 (IRG) への参加、テキストレベルにおける TEI (Text Encoding Initiative) コンソーシアムでの東アジア日本研究会の設置、画像レベルにおける IIIF (International Image Interoperability Framework) への参画は、日本の日本の人文学全体に資する企図である。これらの成果を総合し科学研究費基盤 S 「仏教学術新知識基盤の構築」の成果として出版した『デジタル学術空間の作り方』においては、デジタル媒体における人文学のありようについて、その原理的次元から具体的適用例までを提示した。

## d 主要業績

### (1) 著書

- 下田正弘 (単著) 「井筒俊彦が開顕する仏教思想——比較宗教的地平から如来蔵思想をみる」、澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶応大学出版会、207-230 頁、2018.9
- 下田正弘・永崎研宣 (共編著) 『デジタル学術空間の作り方——仏教学から提起する次世代人文学のモデル』、文学通信、2019.12
- 下田正弘 (単著) 「変貌する学問の地平と宗学の可能性」、『日本仏教を問う: 宗学のこれから』、207-241 頁、2018.9
- 下田正弘 (単著) 「大乘仏教の成立」伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留 (責任編集) 『世界哲学史 2——古代 II 世界哲学の成立と展開』(ちくま新書)、筑摩書房、pp. 87-111、2020.3

### (2) 論文

- 下田正弘 (単著) 「仏教学のフロンティアと比較思想——言語論的転回からの照射」、『比較思想研究』、45、58-63 頁、2019.3
- 下田正弘 (単著) 「エクリチュール論から照らす仏教研究——大乘経典研究準拠枠構築のこころみ」、『インド哲学仏教学研究』27、1-51 頁、2020.3
- 下田正弘 (単著) 「デジタル化時代の人文学と中国研究——学術インフラの整備と国際学術ネットワークへの貢献に向けて—」、『中国—社会と文化—』34、5-19 頁、2019.7
- 下田正弘 (単著) 「『正典概念とインド仏教史』を再考する」、『印度学仏教学研究』68-2、1043-1035 頁、2020.3
- 王一凡・下田正弘 (共著) 「中国の書籍デジタル化コンソーシアム CADAL の動き」、『中国 21 デジタル資料の学術と未来』 Vol.51、167-184 頁、2019.12
- Shimoda, Masahiro. (単著) “The Structure of the Soteriology of Tathāgatagarbha Thought as Seen from the Perspective of Different Modes of Discourse: A Response to Critical Buddhism,” *Acta Asiatica*, 118, 79-97, 2019
- 永崎研宣・下田正弘 (共著) 「オープン化が拓くデジタルアーカイブの高度利活用: IIIF Manifests for Buddhist Studies の運用を通じて」、『じんもんこん論文集』(2018)、389-394 頁、2018.11

### (3) 解説・その他

- Shimoda, Masahiro (単著) . “Foreward.” John White and Kmmmyo Taira Satō, 5-7-5 Tha Haiku of Basho, London: The Buddhist Society Trust, pp. 8-10, 2019
- 下田正弘 (単著) 「文庫版解説: 仏教思想における言説様式の差異について」、高崎直道『仏性とは何か』法蔵館、2019.11、313-318
- 下田正弘 (単著) 「現代思想から照らす称名念仏の意義」、『ともしび』801、2019.7、1-9
- 下田正弘 (単著) 「二十一世紀の日本仏教・仏教学と社会貢献 パネル主旨のまとめ」、『宗教研究』92. 別冊、42 頁、2018.12
- 下田正弘 (単著) 「デジタル学術空間と宗教研究—AAR Guideline への応答—」、『宗教研究』別冊、2018.12
- 下田正弘 (単著) 「仏教思想のエッセンス①」、『浅草寺』669、24-32 頁、2019.4
- 下田正弘 (単著) 「仏教思想のエッセンス②」、『浅草寺』670、42-49 頁、2019.5
- 下田正弘 (単著) 「学問の対象としての法然浄土学」、『浄土学』55、29-57 頁、2018.6
- 藤田宏達・今西順吉・藤井教公・斎藤明・下田正弘・細田典明「学問の思い出・藤田宏達先生を囲んで」、『東方学』137、99-140 頁、2019.3
- 下田正弘 (単著) 「デジタル学術空間と宗教研究—AAR Guideline への応答—」、『宗教研究』別冊、2019.12

### (4) 主な学会等発表

- 国際、下田正弘、「言説の様相の差異からみた如来蔵思想の救済論的構造——批判仏教に込めて——」、国際東方学者会議、東京: 教育会館、2018.5.19
- 国内、下田正弘、「仏教学のフロンティアと比較思想」、比較思想学会、東京: 日本大学、2018.6.16
- 国内、下田正弘、「デジタル化時代の人文学と日本における中国研究」、中国社会文化学会、東京: 東京大学、2018.7.8
- 国際、Shimoda Masahiro、「Building a Digital Infrastructure for the Humanities and the Role of Buddhist Studies」、Triptaka for the Future: Envisioning the Buddhist Canon in the Digital Age (The 4th International Conference on the Chinese Buddhist Canon)、The University of Arizona, USA、2018.11.3
- 国内、下田正弘、「仏教学とデジタル—本プロジェクトの位置づけと人文情報学の将来像」、デジタル時代における仏教学のあり方、東京: 東京大学、2019.2.9
- 国内、下田正弘、「浄土宗と大蔵経——増上寺三大蔵のデジタルアーカイブの意義——」、公開講座「仏教の智慧を開く——浄土宗大本山増上寺所蔵未版大蔵経デジタルアーカイブ化——」、東京: 浄土宗大本山増上寺、2019.3.18

国際、Shimoda, Masahiro. “A Linguistic Domain as a Field of Consciousness: Appearance of a New Mode of Discourse in Mahāyāna Sūtras and the Germination of the Soteriology of Tathāgatagarbha Doctrine.” International Workshop: New Perspectives on the Idea of Buddha-Nature in Indian Buddhism University of Hamburg (Germany). 2019.7

国内、下田正弘、「正典概念とインド仏教史を再考する—直線的史観からの解放—」、日本印度学仏教学会第70回学術大会、京都：仏教大学、2019.9.7

国内、下田正弘、「デジタル学術空間と宗教研究——AAR Guideline への応答——」、日本宗教学会第78回学術大会、東京：帝京科学大学、2019.9.14

国際、Shimoda, Masahiro. “Buddhism and Digital Humanities,” King’s College London Buddhist Studies Research Seminars 2020, 2020.1.31. King’s College London, London (UK).

(5) 予稿・会議録

国内会議、一色大悟・苅部直・下田正弘・山口輝臣・鈴木淳、「東大仏教学への新たな視座」、東京：東京大学、2018.7.20 『Humanities Center Booklet Vol.1 企画研究「学術資産としての東京大学」講演録1』、3-54頁、2019.8

国際会議、Shimoda, Masahiro. “The Significance of Buddhist Studies in the Diversity of Digital Humanities,” Digital Humanities and Buddhism: Focussing on Data Mining and Visualization, Seoul, Dongkuk University, 2018.6, pp. 24-27

国内会議、永崎研宣・下田正弘他「横断型デジタル学術基盤を目指して—SAT2018 の構築を通じて—」、『情報処理学会研究報告(Web)』 Vol. 2018 - CH - 117, No.8, 1 - 6, 2018.5、<http://jglobal.jst.go.jp/public/201802267617877224>

国内会議、王一凡・永崎研宣・下田正弘「グラフデータベースによる文書リポジトリ統合管理システムの設計」、『情報処理学会研究報告(Web)』 Vol.2018 - CH - 117, No.8, 1 - 6, 2018.5、<http://jglobal.jst.go.jp/public/201802277512962828>

(6) 会議主催(チェア他)

国際、「デジタルアーカイブ時代の人文学の構築に向けて——仏教学のための次世代知識基盤の構築——」、主催、2018.1.6～2018.1.7

国際、「Dialogue on Digital Philology West and East: Perseus Digital Library and SAT Daizokyo Text DB」、主催、Hitostubashikaikan, Tokyo, 2018.7.6

国際、「Text Encoding Initiative Conference」、主催、東京：一橋講堂、2018.9.9

国内、「シンポジウム デジタル時代における仏教学のあり方」、主催、東京：東京大学、2019.2.9～2019.2.10

国内、「シンポジウム デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」、主催(科学研究費基盤 A「仏教学デジタル知識基盤の継承と発展」)、2020.1.17、東京：都市センターホテル

(7) 受賞

国内、SAT 大蔵経データベース研究会代表・下田正弘「デジタルアーカイブ学会学会賞(実践賞)」、デジタルアーカイブ学会、2019.3.15

国内、SAT 大蔵経データベース研究会代表・下田正弘「第8回ゲスナー賞金賞」、株式会社丸善雄松堂、2019.11

(8) 研究テーマ

日本学術振興会科学研究費補助金、基盤研究 A、下田正弘、分担者(代表者は東大外)、「バウッダコーシャの新展開—仏教用語の日英基準訳語集の構築—」、2018～2016

日本学術振興会科学研究費補助金、基盤研究 S、下田正弘、研究代表者、「仏教学新知識基盤の構築——次世代人文学の先進的モデルの提示」、2015～2018

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 A、下田正弘、研究代表者、「仏教学デジタル知識基盤の継承と発展」、2019～現在

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 A、下田正弘、分担者(代表者は東大外)、「バウッダコーシャの総括的研究—仏教用語の日英基準訳語集の次世代モデル構築に向けて」、2019～

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 C、下田正弘、分担者(代表者は東大外)、「仏教生死観を用いた生涯発達心理学の再考—ターミナルケアと死生観教育への応用」、2019～

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

British Columbia University, DILA, Taiwan、「Some Reflections on the History of Thoughts of Mahāyāna Buddhism」、2018.1

東国大学・特別講義(Korea, ソウル)、「大乘仏教研究の現在」、2018.6

京都大学大学院文学研究科(集中講義)、2018.9

(2) 学会

国際、Alliance for Digital Humanities Organizations、理事、2011～2018

国際、International Association for Buddhist Studies、理事、2015～2018

国際、The Eastern Buddhist Society, Board Member、編集顧問、2005～現在

国際、Japanese Association for Digital Humanities (日本デジタル・ヒューマニティーズ学会)、会長、2011～2017、理事、  
2011～現在

国内、日本印度学仏教学会、理事長、2017～現在

国内、日本宗教学会、常務理事、評議員

国内、一般財団法人東方学会、理事

国内、仏教思想学会、理事

国内、パーリ学仏教文化学会、常務理事

国内、比較思想学会、理事

国内、日本学術会議連携会員、2011～現在

国内、日本西藏学会運営委員

(3) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

大蔵経テキストデータベース研究会(SAT)、代表委員、1995～現在

一般財団法人人文情報学研究所、評議員、上席連携研究員

大蔵経研究推進会議、常任議員、議長

公益財団法人仏教伝道協会、英訳大蔵経編集委員会委員

一般財団法人石原奨学育英会、評議員

一般財団法人仏教学術振興会、理事、選考委員

公益財団法人国際宗教研究所、顧問

一般財団法人東京大学仏教青年会、理事

宗教教育研究センター連携委員